

# 研究部ニュース 2021年度第2号

2021年12月20日(月)

発行者：研究部(小森、大原、大河、松田、石橋、的場、岡)

本校の教育及び研究活動にご協力いただきありがとうございます。この間の研究活動についてお知らせします。

## エクステンション研修について

今回、エクステンション研修として7月29日(木)、30日(金)の二日間にわたり8講座(講師のうち本校教職員が2名)を開催しました。各講座の内容の報告は、本校ホームページの<各分掌>⇨<研究部>よりご覧ください。エクステンション研修では、特別支援教育の専門性を向上するための企画として、本校教職員のみならず、大阪府下の学校園の先生方に広く参加を呼びかけました。

コロナ禍の開催ではありましたが、感染防止対策を講じて、研修を実施させていただきました。受講者にとっては、直接講義を聴く機会と共に有意義な時間を過ごすことができたと思います。

担当していただいた講師の先生には感謝申し上げます。また、来年度以降も地域貢献も含めた専門性向上のための取り組みを続けて参ります。

(文責：小森)



## 五校園共同研究発表会について

附属平野五校園では、今年度より『一人ひとりの多様な可能性を広げる評価の在り方(2)～主体性が働く【探究学習】プログラムの学習評価のモデル開発をめざして～』という研究主題を設定し、3年間にわたり平野五校園が協同的に研究を進めています。1年次にあたる今回の共同研究発表会では幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校がこれまで行ってきた「探究学習」の分析と評価を行い、その成果を発表しました。

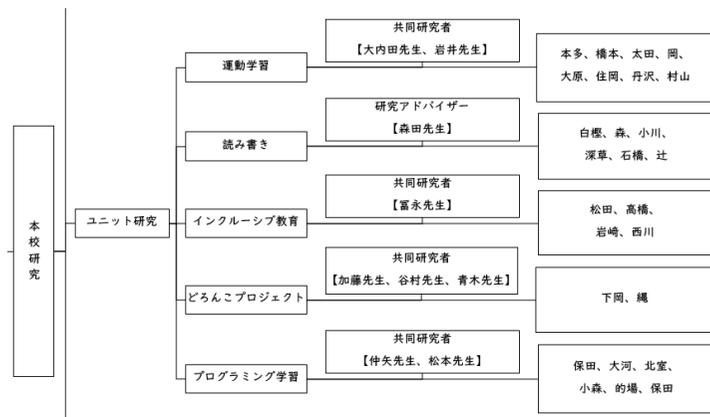
幼稚園からは「幼児の主体的な遊びを通して探究する姿を読み取る」、小学校からは「主体性を引き出す探究学習」、中学校からは「主体性を引き出す総合的な学習の時間」、高等学校からは「主体性コモンルーブリックを活用した歴史総合・公共の授業」・「主体性ルーブリックを活用した体育の授業」、本校からは中学部の保田先生が「特別支援教育における探究的な学習」をテーマに各校の工夫を凝らした取り組みを動画やスライドを用いて発表しました。

各校の発表後には、本学教員養成課程学校教育部門准教授八田幸恵先生より「探究学習の持続的発展を支える資質・能力」と銘打ったご講演を賜りました。発表会後のアンケートでは参会者の皆様から本校の発表に対して「教師から生徒の思いを引き出す言葉かけが多く参考になりました。」等、温かいお言葉をいただきました。

平野五校園共同研究も今年度で17年目を迎えましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会情勢を踏まえ、初めてのオンライン形式での開催となりました。環境的な制約の多い年となりましたが、できることを探して実行、実践する五校園全職員の不屈の精神に感銘を受けた次第です。今後も困難な状況下が予想されますが各校の研究を推進し、附属平野五校園が力を合わせて2年次の研究に邁進したいと考えております。(文責：大原)

## ユニット研究について

本校では学部研究（カリキュラム研究）に加えて、特別支援教育の今日的課題に対応するために大学教員との共同研究『ユニット研究』にも取り組んでいます。現在5つのユニットで研究を進めていますが、その取り組みをここで報告させていただきます。



### 1. 知的障害特別支援教育における感覚情報を活用した運動学習

運動学習ユニットでは、全身運動と微細運動に視点をあてた研究を行っています。握力が向上をすることで、手指の巧緻性が向上すること、全身運動では、投げるボールが目標の近くに止まることを目指した指導を行いました。微細運動では、模範動画を視聴しグリップハンドを握り、楽しく運動を行いました。全身運動のボッチャでは、正しいフォームを動画で視聴観察し、改善点を指導してもらい繰り返し投球しました。

結果として、微細運動では、対象生徒全員の握力数値が左右とも上昇し、手先の作業の力を図る検査数字の上昇が見られました。全身運動では、投げる動作改善とボールの静止場所のばらつきが減少しました。清掃活動の授業場面では、火ばさみでゴミを拾うことがうまく出来るようになったり、ボッチャでは目標を定めて相手のボールに当てることが増える等の効果が見られました。(文責:本多)

### 2. 知的障がいのある子どもへの認知特性に応じた読み書き指導

読み書き指導のユニットでは、「1文字読みと語読み、見本合わせ課題を使った指導方法」に着目し、指導を行いました。見本合わせ課題を使った指導で1文字読みや語読みの力がどのくらい向上するのか、また、ひらがな読みに必要な音韻認識にどの程度変化が見られたのかについて、指導前後で比較しました。

結果は短期間・短時間の指導で効果が見られ、1文字読み、語読み、音韻認識それぞれに向上が見られ、指導後の定着や般化も良好でした。効果が得られた理由として、①アセスメントから指導の目標が的確に絞れた②見本合わせ課題で迂回学習ができ、効率的な指導ができた③指導対象となった児童が音-文字対応に気付き始めるちょうど良いタイミングであった、ことなどが考えられました。

(文責:白樫)

### 3. インクルーシブ教育

インクルーシブ教育ユニットでは、今年度は、コロナ禍における「交流及び共同学習」の実践として、本校中学部1年生徒の一人の母校の支援学級在籍児童(5・6年生)と中学部生徒との交流を行いました。

1回目は、「自己紹介」で顔合わせをしてから、「質問タイム」でそれぞれの学校のことや友だちのことを質問したり答えたりしてお互いのことを知り、最後に「しりとり」をして言葉のやりとりを楽しみました。2回目は、大阪府立江之子島文化芸術創造センターにもご協力いただき、三者でオンライン対話型鑑賞会を行いました。これまでの研究実践をまとめ、事後学習にて両校の児童生徒から得られたアンケート結果や相手校教員からのインタビュー調査から現在結果・分析を行っています。(文責:西川)



## 4. どんごプロジェクト



どんごプロジェクトユニットでは、昨年度に引き続き赤土と白土の2種類を用い、個々の好きな粘土操作や表現方法の過程で生まれた形や残った指跡、自分なりにイメージを持って作った形や命名したものを乾燥、焼成しました。できた自分の作品に直接触れ、感触や色の変化を味わうことができました。11月には本校会議室にて「どんご美術館」を開催し、子どもたちの作品を展示しました。ご来館いただいた皆さんからいただいた感想を聞き、喜んでおりました。

子どもたちは、主体的に粘土に関わるようになり、操作面での変化も見られています。また、粘土の柔らかさや色による感触の違いなどを感じ取り、自分の好みの粘土を選ぶ様子も見られました。(文責：縄)

## 5. 知的障害特別支援学校におけるプログラミング学習を活用した論理的思考の育成

プログラミングユニットでは、今年度は小学部の道徳、中学部の総合的な学習の時間で授業実践を行いました。小学部ではロイロノートのツールを活用し、4つのイラストを起承転結の順番に並び替える学習、中学部ではキーホルダー作りの作業手順や、時系列での流れを考えてカードを正しく並べる学習に取り組みました。児童生徒が集中して取り組む様子や、試行錯誤を繰り返しながら課題に順応していく様子が見られました。

学習効果の測定として、学習の前後に小学部では「迷路」、中学部では「点つなぎ」に取り組み、時間の計測やエピソード記録の変容から評価方法の検討もしました。また昨年度までの課題や考察を踏まえて、プログラミング学習の「学習効果」「系統性」「レジリエンスの育成」についても検討しました。(文責：保田)

## 個人研究について

学部研究・ユニット研究に加えて、個人的に追究したいテーマを定め研究に取り組んでいます。今年度は7名の教員が個人研究に取り組んでいます。研究テーマは、音楽、描画、ダンス等多岐にわたっています。ユニット研究と個人研究を掛け持ちする教員もおり、意欲的に研究を進めています。月1回程度自由課題研究検討会を開き、研究協議を行っています。

### 知的障害特別支援学校高等部におけるライフキャリアに関する教員 —保護者ニーズから汲み取る子ども理解の有用性— (丹沢)

本研究の目的は、知的障害特別支援学校高等部の生徒たちが、他者からの支援を受けながら卒業後、地域社会での適応や自己実現、QOLの向上をめざす為の移行支援の在り方から、ライフキャリアの概念を取り入れたキャリア教育の指導・支援の在り方を研究することです。

### 良好な対人関係の形成に課題を持つ生徒が直面する 進路選択に関する支援について (迫田)

高等部卒業後の進路選択にとって大きな影響を与える要因の一つとなる対人コミュニケーションについて、それを苦手とする生徒に対する支援をキーワードとして、分析・研究を行っています。今年度は卒業生へのアンケート調査等を実施し、より実情を反映した内容となるよう研究を進めています。

### 特別支援教育におけるダンス指導モデルの検討 (竹内)

ダンスには体力の維持・増進、コミュニケーションや自己表現等、様々な効果が期待されています。ダンスでの「創る」過程において、動きやイメージを共有することに焦点を当てた授業実践を通し、コミュニケーションや表現を促す指導・支援についての研究を行っています。

## 教大協について

令和3年12月24日（金）に日本教育大学協会附属特別支援教育部門近畿地区研究集会および近畿地区附属学校連盟特別支援教育部会の合同実践研究会として、本校の5つのユニット研究の発表をオンラインにて行います。ユニット研究については、三年間のまとめとして以下のタイトルで発表させていただきます。

- ・知的障害特別支援教育における感覚情報を活用した運動学習
  - ・知的障害のある子どもへの読み書き指導
  - ・インクルーシブ教育における交流及び共同学習の現状と課題
  - ・本学美術・書道部門と連携した土粘土を用いた造形活動の展開
  - ・知的障害特別支援学校におけるプログラミング学習を活用した論理的思考の育成
- （文責：小森）

## 研究大会について

### 知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメントの運用とキャリア教育の推進

令和4年2月11日（金・祝）に研究大会をオンラインにて開催いたします。今年度は3年間の研究計画の最終年度となります。学習指導要領が新しくなり、社会や地域との繋がりを重視した学校の在り方が求められています。子どもたちの卒業後の豊かな生活のための教育実践について授業での取り組みを中心に研究を進めています。これまでの実践と現在の実践、そして今後の課題をよりよい実践につなげていく方法を探り続けています。保護者の皆さまをはじめ、たくさんの方々のご協力での研究を行えていることに、深く感謝申し上げます。（文責：小森）



### 知的障がいがある子どもにおける対話型鑑賞の学習評価の実践

（花田）

知的障がいがある生徒が対話型鑑賞で他者の意見を取り入れて自分の意見を考える体験をすることや、美術科「鑑賞」の学習評価を指導の改善につなげていくことでの、生徒たちの「聴く力」の変容について報告します。

### 特別支援学校における美術の授業を通しての 自己選択・自己決定の育成について（辻）

特別支援学校における美術の授業を通して、生徒自身が「自己選択・自己決定」ができる授業づくりについての研究を行っています。また、その取り組みを通して、自己決定の成長過程の検証も行っています。

### 特別支援学校高等部における就労意欲獲得のための考察（野崎）

特別支援学校高等部を卒業した後、就業を通じた社会的自立を果たすためには、就労意欲が必要不可欠です。生徒たちが在学中に就労意欲を獲得するためには、どのような支援が必要なのか、また、「就労意欲がある」とは具体的にどのような状態なのか、研究を行っています。

### 知的障害特別支援学校高等部における情報科授業実践（松田）

GIGAスクール構想でICT機器を活用した授業実践が求められています。今年度高等部の情報科、本校に導入されたChromebookを活用しての情報科の授業実践や、Minecraftを活用した協働学習の実践を行い、今年度はその実践について報告します。